

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571800186
法人名	社会福祉法人 報謝会
事業所名	グループホームみやま荘
所在地	宮崎県西諸方郡高原町大字蒲牟田7351-2 (電話)0984-42-5001
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 6月 26日

【情報提供票より】(21年 6月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 1月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	27 人
常勤	12 人
非常勤	6 人
常勤換算	15.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	6,500 円	
敷 金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 540 円			

(4)利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	77 歳	最高	102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険高原病院 ひろた内科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、霧島山麓の田園風景の広がる静かな場所にある。広々とした敷地に同一法人の老人福祉施設と隣接し、夏祭りや行事を一緒に楽しむなどの交流がある。中庭には芝生が敷き詰められ、一緒に散歩できるなど、のびのびと活動できる環境にある。また、建物内部はバリアフリーとなっており、入居者の集まるフロアーには畳のスペースやソファが置かれ、一人ひとりがゆっくりとくつろげる空間となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議で自己評価結果を公表し改善課題についての取り組みがある。管理者や職員は、自己評価の意義やねらいについては理解しているが、限られた職員による評価となっている。評価で見出された課題について全員での取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果について経営者の意見はない。管理者や職員は、自己評価の意義を理解し、限られたスタッフの中、評価で見出された課題についての取り組みがある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回定期的に開催されており、参加者として民生委員、利用者、家族、行政職員等の参加がある。会議の中で自己評価における結果報告や、課題の改善に向け検討を行いサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱設置の他、月に1回入金に合わせて家族へ訪問を呼びかけ、意見を引き出す努力をしている。実際、苦情としての報告は少ないが苦情相談担当者や解決体制を整え対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの夏祭りや敬老会を通して地域との交流に努めている。今後さらに、地域住民の一員として町内会参加や自治会加入、地域の人々に運営推進会議への参加を呼びかけるなど、地元の人とのつながりを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、昨年ホーム独自の理念として、「利用者一人ひとりの生きがいを大切に…」を掲げ自分たちで取り組む姿勢が伺え、利用者本位の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は玄関の見やすいところ掲示されている。職員のヒヤリングの中からも「優しく声かけている。また、家族に喜んでもらえる事で、やりがいを感じる」など、実践に向けた取り組みがある。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の重症化や、限られた職員数という環境の中で、法人全体の夏祭りに参加してもらい、また、敬老会を通じて地域との交流を図る取り組みがある。	○	人的に厳しい環境の中、自治会への働きかけや、運営推進会議を活用し地域住民へのアピールを行う。また、ボランティアの受け入れなど地元の人々との交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義は理解している。しかし、限られた職員の中で全体での評価には至っていない。項目においては改善に向けての取り組みがある。	○	評価で見出された課題について改善計画を立て、できることから少しずつ実施できるよう取り組みの工夫をしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に2か月に1回開催されている。参加者として民生委員、利用者、家族、行政職員等の参加があり会議の中で、自己評価における結果報告、検討を行いサービスの質の向上に努める取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ行政職員の参加があり、積極的に自己評価の報告がなされている。また、定期的に地域包括支援センターと連携を図り介護計画の指導を受ける等、サービスの質の向上に向けての取り組みがある。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、入金に合わせて家族へ訪問を呼びかける取り組みがあり、来訪時利用者の健康状態や日常について報告がなされている。金銭管理についても領収書で報告された記録がある。また、ホーム便りで入居者の近況報告や、職員の異動についても報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情処理体制が明確にされ玄関には意見箱が設置されている。月1回家族の来訪時や、夏祭りの時などに意見を伺う取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	限られた職員数の中で、法人内の突発的な異動に対し職員は、利用者のダメージを最小限にする取り組みを行っている。	○	限られた職員数の中で、職員は希望する休暇も十分取れていない状況にある。運営者は、職員がゆったりとした環境の中で支援できるよう労働環境の改善を図る取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、年に数回の研修に参加し、資料や申し送りノートで回覧し報告を行っている。	○	職員は、研修に参加したい意欲はあるが現在の職員数では限られた研修しか参加できない状況にある。運営者は、人材育成の為に職員が積極的に研修に参加できる機会を増やせるよう環境を整える取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同運営推進会議や、グループホーム連絡協議会県西ブロックなどに参加し、地区の同業者との意見交換を行いサービスの質の向上を図る取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染んでもらうよう見学の受け入れや、無料で二泊三日体験入居を行うなど、利用者が安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握し日常生活に活かす取り組みや、行事の時には一緒に行くなど、同じ目線で支え合う関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント記録に本人や、家族の意向が明記されてプランに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者を中心に全員で話し合いがなされ、スタッフの意見がケアプランに反映されている。また、計画は家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しやモニタリングは3か月に1回実施されている。また、変化が生じた場合は現状に即した計画の見直しがなされている。	○	状態に変化がない場合においても、毎月1回はモニタリングを行い新鮮な目で介護計画の見直しを行う取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院支援や墓参りなどの外出支援を行い、多機能性を活かした対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を重視した支援がなされ、協力医療機関へも職員が同行し利用者の状況を伝えるなど、連携を図る努力がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として、重度化や終末期に向けた取り組みがあり、過去に看取りを行った経験もある。しかし、現在は協力医療機関へ搬送し対応している。今後必要であれば取り組む姿勢はあるが、人員的にも環境を整え、慎重に対応していきたいと前向きな取り組みがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真入りのホーム便りも家族の了解を得て、家族のみ配布している。利用者への声かけも優しく対応がなされ、プライバシーを損ねないよう配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のやりたいことを把握し対応する取り組みがあり、利用者のペースに合わせて部屋でくつろぐ、ホールで休む、個別に応じ食事介助が行われる等、利用者のペースで時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が作成し、好き嫌いや利用者の重度化に合わせて食事形態を代える取り組みがある。また、利用者の能力に合わせて一緒に準備をしている。	○	限られた人数で先ず利用者の食事が優先されている。できる限り利用者と職員が一緒になって、食卓を囲んで同じ物を食べる取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が行われ、汚染時もその都度入浴している。関節拘縮により浴槽に入れない利用者に対し職員が抱えて対応するなど、入浴を楽しんでもらう取り組みがある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を活かし、金魚の世話や猫の世話、洗濯物たたみやシーツ交換、畑仕事など日々の楽しみごとの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、散髪や墓参り、庭の散歩などの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	訪問時、外柵は施錠してある。各ユニットごとの玄関は施錠されていないがチャイムで監視できるようになっている。	○	見守りが十分行えずやむを得ない場合にも、鍵をかけない工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と連携し、夜間の想定も含めて防災訓練を行っている。隣接する施設や近隣の支援体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量の記録がある。月1回体重測定を行い栄養管理も行われている。献立は、栄養士が作成し嚥下能力に応じた食事形態の工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共有空間は広々としており、畳のスペースやソファなどが設置され一人ひとりがゆったりと過ごしている。また、壁には手作りで季節を感じる絵が飾られ、不快な音や光もなく居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はきれいに整理され、馴染みの家具や、仏壇が飾られるなど本人が居心地良く過ごせるような工夫がなされている。		